

# 平成29年度観桜会

偕行社事務局

平成29年4月3日、桜が満開に咲き誇る靖國神社で昇殿参拝の後、靖國會館田安・玉垣の間で観桜会を開催した。

若木事務局長の司会で進行し、まず挨拶に立った冨澤理事長は、偕行社の元幹部自衛官会員が3千人に達して帝陸軍関係会員数を越えたことを紹介して、「帝陸軍関係会員から元自衛官会員への継承については、木に竹を接ぐようなものでうまくいかないのではないかとという声もありましたが、今日の満開の桜を見ながら、この桜の木の接ぎ木は概ね成功したのではないかと思います」と述べた。

続いて、ご来賓の小田原潔衆議院議員、宇都隆史参議院議員、公益財団法人水交会齋藤隆理事長、陸上自衛隊幹部学校長西浩徳陸将から、それぞれご祝辞を頂いた。その後、他の16名のご来賓と法人賛助会員8社の紹介、佐藤正久参議院議員からの祝電披露と続き、偕行社の志摩篤会長の音頭による乾杯をもって懇談に入った。

乾杯後、帝國纖維株式会社代表取締役社長白岩強様から、ユーモアを交えた経済事情に関するお話を頂戴した。

宴もたけなわとなり、恒例の軍歌演

習は、最初に「偕行百年」を偕行合唱団員を中心に練習した後、「陸軍士官学校校歌」「陸上自衛隊幹部候補生学校校歌」と進んだ。そこにタイミングよく山谷えり子参議院議員が到着され、ご祝辞に続き、一緒に「加藤隼戦闘隊」の合唱とあいなり、大いに盛りあがった。

最後に、陸士56期の大坪寿光様から、昭和18年5月に少尉に任官した折市ヶ谷大講堂での壮行会で、東條英機首相が裸踊りで祝ってくれたエピソードや、「偕行百年」の歌詞にある「あとに続くを信じ」は、香港攻略戦の一番乗りで有名な若林東一大尉がガダルカナルの戦いの中で記した「後に続くものを信ず」から来ているとの話などが紹介され、大坪様の音頭による万歳三唱で観桜会は締めくくられた。

本会は、帝陸軍関係会員から元自衛官会員への継承がなされた偕行社の門出を祝うような印象的な観桜会であった。

